

お金貯まる長財布を誌上通販



1-2.16

モノマガジン合併号

平成23年12月16日発行・発売（毎月2回2日・16日発行・発売）
第31巻第1号・通巻663号
昭和57年11月2日第3種郵便物認可

新製品から時代を読む
2012 NO.663 定価620円
www.monomagazine.com

「金運向上計画」第2弾
長財布で金を貯める。

全開面白フルグッズ

ある意味職人！
こんなモノ思いつく
面白人間の頭の中身



いま着たい3人のデザイナーが作る服
河合由朗+10代目山口
源兵衛+斎藤上太郎
男のアイテム探し
新定番モノ
うどんなけじゃなかった
モノすごいぞ、香川県



いま選ぶべきは、
アクティブ眼鏡

“高くても凄い財布”の特集の第2弾。
人気のレザーブランド各社が、それぞれの得意技や素材を活かした最高級のサイフを特別製作。誌上で大紹介＆限定販売する。財布を変えるなら今！



「レッドムーン」
のアイテム
すべて見せます



特別付録



神具台・三祀御社、神護 天然桧



写真/熊谷義久 (WPP)

世界の傑作品

現代の生活空間にあう グッドデザインな神棚

神社にお参りするのが好きだ。神社の静かな空気のなが、二礼二拍一礼。柏手をうつと、清らかな気持ちになる。

先日、友人の引越祝いを探していたときに神棚を贈ることを思いついた。けれど、神棚を買ったこともないので値段の見当がつかないし、サイズや正しい置き場所もわからない。そもそも、神棚、ってなんだ？

調べてみると神棚を置く風習は江戸時代から始まったという説が有力なようだ。江戸時代に起こった伊勢神宮への参詣ブームであるお蔭参りの際にもらってきたお札を納めるために生まれたものなのだ。

現在販売されているほとんどの神棚は装飾が華美で場所を取るものが多いのだが、神宮司神棚舎と早川産業の神棚は、現代的なデザインで美しい。

写真左は山梨県甲斐市にある神棚メーカー、神宮司神棚舎のもの。デザインはプロダクトデザイナー・酒井俊彦氏が手がけている。現代の生活空間を考慮し、

限られたスペースに美しく収まるデザインで、壁に掛けて使えるタイプなども展開している。写真手前の神具台(しんぐだい)は榎立、水器、米や塩を供える白磁の皿のセットだ。ひとつの台でセットになっているため、お

供えの取替えも手軽にできるのがいい。写真奥の三祀御社(さんまつりおやしる)はなかに仕切

りがあり、お札を3枚並べて収納するタイプの神棚。伊勢神宮の式年遷宮(社殿の建て替え)に使われる木曾檜を使い、格子面は日本最古の神社とされる宇治上神社の本殿を参考にした直線と格子面のコントラストを際立たせたデザインだ。

また、写真右は神棚製造が地場産業である岐阜県中津川市付知町の早川産業の神護(かみもり)シリーズ「天然桧」。デザイナー・川上元美氏が手がけたもので、神棚の尊厳を損なわずに神社札を納める方法をシンプルにした構造も特徴だ。余計な装飾がない、凜とした佇まいがいい。現代の住まいにも馴染むシンプルなデザインが特徴だから、友人宅のお洒落なリビングルームなんかにおいても違和感がない。

こうしているうちに調べるうちに、むしろ自分の神棚がほしくなりました。朝夕に神棚に向かって手を合わせる。なんとも日本人らしくていい習慣じゃないか。

【写真左奥】「三祀御社」高さ300×幅440×奥行78mm。価格19万円

【写真左手前】「神具台」高さ49×幅189×奥行66mm。価格1万円

☎神宮司神棚舎 ☎0551-28-7289

<http://jinguji-kamidanasha.net>

【写真右】「神護(かみもり)シリーズ天然桧」幅235×高342×奥行100(mm)。価格7万8750円

☎THE COVER NIPPON ☎03-5413-0658

<http://www.thecovernippon.jp/>